

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(29)

——第276号から第285号——

門 田 俊 夫

第276号 1711年1月16日(水曜日)

【スティール】

美德が過ちに嘘偽りのない名前を付けて
 おいてくれたらよかったのに。(ホラティウス)¹⁾

観察者殿

小生としては、貴殿がご自身の欠陥を指摘されても耐えられるだけの冷静な方であることを希望します。小生が考えますに、ふしだらな女性に注目している貴紙²⁾は、世間のことをご存知の道徳家^{モラリスト}の著述に挿入するに値しない野卑な書き方になっています。小生は貴殿が人々の行状についてこれほど自由闊達に語ることを認めるわけにはいきません。そうする場合には、少なくとも、当該の人物の身分や生き方に応じて、マナーの差異を取り上げるべきです。行儀をわきまえた人なら、女性の不幸について語る場合でも、最も酷い点については触れないものです。悪徳について語る場合には、一層この優しさを失わないように心がけるべきです。人間というものはすべて密接に絡み合っていますので、誰もが免れることのできないことには注意を払うべきです。他人をうんざりさせるようなやり方である人物のことを取り上げるようなことはしないものです。例えば、金持ちの人にその人の親戚の困窮状態を告げたり、徳高い女性にそれまではその人と同程度に尊敬されていた人物の転落について不意に知らせたりすることは、いわば、彼らを不都合に巻き込むことになります。それゆえ、すべての著述家にはその主張を論説が対象とする読者を喜ばせるのにふさわしい取り上げ方をする必要があります。お茶のテーブルを囲む人々向けにものを書く場合には、恥辱と侮蔑といった嫌悪感を帯びた悪徳を引き出す必要はありません。お門違いな自惚れや狡猾な眼差しや偽りの態度について描写する場合には、彼らがおそらくやましさを覚えることができると考えられるあらゆることを俎上に載せます。以上の制約を念頭に置いて語る場合には、他者が自分の嘲笑を支持してくれることを期待した振舞いをします。だが、ほかの誰もが自分たちの社会的地位について自制するようなやり方で

1) ホラティウス『諷刺』1.3.42

2) 道徳家に関しては、第266号、第274号参照。

すと、彼らは真意を読み取ることをやめ、自分たちの欠陥にそれ以上耳を貸さなくなってしまう。時折暴飲の罪を犯す人を大酒のみと言うことはできません。嘲笑が洗練されているか否かの決め手は、ある人物の欠陥を語る際に、その人に愛情を抱いているように見えるか否かなのです。これについては、カエサルが語っています：ある人が礼を失するくらい激しく毒づいているとき、他人の妻との密通を知られた人物のことを何と呼べばいいのか？ カエサルはとても重々しく「軽率な奴」³⁾だと応えたのです。これは当時当然あるべき嫌悪感が伴っていなかった罪について語ったことへの叱責であると同時に、目上の人たちの前での節度を欠いた振舞いは聞き手にふさわしくない方法で非難することによって狙いを外すのだという暗示でもあったわけです。賢人には一言で十分です。ここで小生が言いたいことは、地位のある自由人は薄情な女性には手を出さないということです。したがって、貴殿は名士のことを必要以上に悪く言わないことが大切です。

敬具

礼儀をわきまえるフランススより

前略

私は評判という点では汚れない女性でして、これまで何一つ傲慢な言動をしたことがありません。ところが先日、その方もまた紳士の身なりをしていたのですが、私の居るところで、失礼にも「好色な奴」という言葉を使用したのです。貴方は私の代わりに憤慨して頂けるものと思います。

草々

シーリア

観察者殿

貴方は最近おぞましい新聞を発行なさり⁴⁾、そこで、犯罪的な愛の状態について詳細な報告を約束なさり、その種の侵犯をした女性をすべて、私が口にしたくない極めて乱暴な呼称でひと括りになさっておられます。私としては、私とその手の者かどうかが貴方には是非とも分かって頂きたいのです。私の場合は以下の通りです。私は独身の老人に囲われています。この方は私のことをとても若いと思っていますので、どうして私に目をお付けになったのか私には分かりませんでした。この方は法学院の幹部をなさっておられ、とても陽気で健康な方です。陽気で健康なことは、彼が言いますには、その昔、国が戦争に明け暮れ、男女の出会いがあたふたとしたものであり、ならず者たちが愛と名誉の秩序ないしルールを維持しているふりをしている人たちの前に現れていたときには、「ならず者」⁵⁾「与太者」「暴れ者」そして「巡査泣かせ」だった彼にとっては幸いしているのです。この方が私のところに参りますときにはとても陽気になさっていますので、こんな喋り方をなさいます。彼には昔の町に対する知識があつて、どうしよもない嫉妬心を覚え不安に駆られますので、彼が言いますには、記憶にあるやり方に倣って、私には部屋履きを履かせ、き

3) この話は、トマス・ベイリー『機知に富んだ警句』のベーコンの警句に登場する。

4) 第266号参照。

5) シャドウエル『ならず者』参照。

ちんとしたコルセットと暖かいペティコートを身につけさせ、髪は巻き毛にさせます。私は一文の価値もない愛人ではなく、満足させたいという欲望を抱いたときに彼に周旋する人物の監視下で、私には必要なものは何でも与えてくれます。私は娼婦の生活につきましては、噂以外には何一つ存じ上げていません。私の声とダンスのステップには天性のものが備わっています。彼は若い頃からの召使で頭には白髪の混じった老人を連れて来ます。この老人は私のダンスに合わせてヴァイオリンでジグを奏でます。ダンスが終わりますと、彼のヴァイオリンに合わせて、美しい調べというよりも戯れの曲を歌ってみせます。貴方はハイパークの近くで不思議な窓の家を御覧になったことがあるに違いありません。この家はほかの部屋からは覗くことができないようになっています。私の部屋はこのようなになっていますので、私は先ほど申し上げましたお二人以外には子供もそうですがどなたにもお目にかかることはありません。世間に出回っている本、パンフレット、芝居、オペラおよび歌はすべて彼が送り届けてくださいます。女性としての私に対する彼の最大の喜びは、私に向かってかつての情事のことを洗いざらい喋ることであり、首筋をなでさすり、昔はこうだったと語り、キスをし、必ず後見人（上記の婦人）の指示に従いなさい、そうすれば何一つ不自由させないと言うことなのです。私の場合の真相は、私が思いますに、私が老齢に達したときには不向きな目的のために教育されたということなのでしょう。そこで、詭弁家としての貴方にお尋ねしたのですが、従順にしています私の無知さ加減はどれほどなのでしょう？ 無力とはいえ、彼に責任があるのでしょうか？

草々

いつも貴紙を読ませて頂いていますピューセラより

観察者と呼ばれていますお方へ

前略

貴殿の労作が日の目を見るとき、貴殿は世間にはびこっている虚栄は言うまでもなく、わが逸楽と悪徳の社会の歪んだ道徳を矯正すると約束なさったので、小生は貴殿の公正な発言を信じ、貴紙を日曜日を除く毎日自宅に配達して貰うことにしたのです。わが娘タビサの啓発、さらにはわが最愛の妻スザンナがこれによって恩恵を受けるのではないかと考えたからです。ところが残念なことに、貴殿は偽り者で、真理は貴殿のうちにないことが分かったのです⁶⁾。貴殿はどうしてまた、最近発行した紙面⁷⁾にわが女性陣の頭を覆う貴殿がチュリップに喩える、このところ一躍流行となったあの無益な被り物のことを載せたのです。それどころか、貴殿はどうしてまた、まるでその考案品を認めるような書き方をしたのですか。お陰で、わが娘タビサは次第に節度をなくし始め、この愚かな虚栄をねだり始めている始末なのです。貴殿が生身の目で見ているのは間違いありません。そういうわけなので、貴殿が直ちに修正し、貴殿自身の想像力に従うことを止めなければ、貴殿との関係を断つことにします。

6) 「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽りの者であって、真理はその人のうちにない（『ヨハネの第一の手紙』第2章第4節）。

7) 第265号参照。

草々

今後は立派な振舞いを願う友のつば広帽子を被ったヒゼキア

第277号 1712年1月17日（木曜日）

【バジエル】

敵からも学ぶことができる。(オウイディウス)¹⁾

洗練された読者の皆さんには、不幸なことに戦争によって中断されたフランスとの通信に先立って、わが国のご婦人方のファッションはすべてフランスから来ているのだとお知らせする必要はないものと考えます²⁾。婦人帽販売人は、月に1回定期的にやって来て、パリの際立った美人たちの格好をしている人形を参考にして品揃えをします。

確かな筋からの情報ですと、戦争が激化したときでも、この女性は努力を重ね、この木製のフランス女性の輸入に大きな貢献をしたとのことでした。

彼女たちの船が行方不明になったのか拿捕されたか、積荷が密輸品として税関³⁾の役人に没収されたかどうか、私はいまだ掌握できていません。しかしながら、わが女性陣を大いに落胆させたことに、最初の試みは失敗に終わったことは確かです。これほど重要な事柄に彼女たちが熱心に打ち込む姿は十分に称えられることはありませんので、あらゆる妨害にもかかわらず、彼女たちが私が受け取ったつぎの二通の手紙の助言の目的をやっと達成したことを知って、私は嬉しく思います。

前略

私はフランスのものは何でも大好きですので、先だってフランス語も喋らず、ボルドー産赤ワイン⁴⁾も飲まないつまらない求婚者を見捨てました。私はこのところ久しく戦時中の女性の不幸を密かに悲しく思ってきました。この間ずっと、私たち女性は時にはまづまづの真似事はできますが、フランスのようにセンスの備わっていないわが国の仕立屋が作る耐え難いドレスで我慢して来たのです。

私はもう二度とあの親愛なる国のモデルを見かけることはないものと諦めかけていたのですが、先週の土曜日、信徒席の隣りにいた婦人がその隣りの婦人に、コヴェントガーデン、キングストリート⁵⁾にあるセブンスターズに頭のとっぺんから爪先まで全身パリの着こなしをしている「人形」⁶⁾がある、とささやいているのを漏れ聞いたのです。

1) オウイディウス『変身物語』4.428

2) 第45号、第53号参照。

3) 1668年に建設された税関は、ロンドン塔から数ブロック西のテムズ河畔にあった。

4) 1703年のポルトガルとのメシュエン条約によって、イングランドはポルトガルのワインをフランス産ワインの3分の2の低関税で輸入することに同意した。

5) キングストリートは、コヴェントガーデンの北西の角からセント・マーティンズ・レーンまでの通り。

6) 『アメリカンフット・アンド・クエアリーズ』の筆者によれば、19世紀までパリの仕立屋は商品を人形に着せて宣伝するのが習わしだったという。ヴェニスではキリスト昇天祭に毎年フランスの人

私はその後のお祈りは耳には入らないほどでした。そこで、お祈りが済みますと直ちに、その婦人帽販売人の住所を知っていましたので、教会を出たその足で、キングストリーの彼女の店に行きました。だが、そのフランス婦人はバルマルのお屋敷に出向いており夜遅くならないと帰って来ないとのことでした。そこで、私は改めて翌朝早く訪ねざるを得ませんでした。そして、その親愛なるフランス人形の全身をしっかりと見つめたのです。

私たち女性が戦時中締め付けられてきたことを私がどれほど馬鹿馬鹿しいと思っているか、また、フランスのドレスがわが国のドレスに比べていかに優れているか貴方には想像できないものと思います。

マンチュア⁷⁾の袖には紐はついていません。そこで、私としては、ある種の錘を必要としないように、私たちイギリスの婦人とフランスの婦人の体重が同じくらいであることを願っています。ペティコートには鯨のひげが入っていませんが、ゆったりと優雅に出来ています。髪形は言葉で言い表せないほど素敵です。要するに、そこには、私がこれまで身につけたことがない美がちりばめられていたのです。

とにかく、つぎの女王生誕祝賀に私がパリのモードで現れても貴方が驚かれないようにお知らせしておくのが適当と考えた次第です。

草々

テラミンタ

この手紙を読み終えて1時間もしないうちに、人形の持ち主からつぎの手紙を受け取りました。

拝啓

先週土曜日12日に、コヴェントガーデン、キングストリーの私の店に、1712年のフランス人形が届きました。私はその人形に、細心の注意を払って、パリで最も有名な仕立屋とマンチュア・メーカーのドレスを着せました。私は衣服の輸入にいくらお金をかけても惜しいとは思いません。けれども、貴方ほどドレスのことがお分かりになる方を存じ上げていませんので、貴方がシティーへ出向く途中で私の店に立ち寄り、この人形を御覧になって頂き、貴方が承服しがたい点がございましたらご教示下さい。すべて修正したいと思います。人形の公開はその修正を待ってからにしたいと考えております。

敬具

クロスステッチのベティより

私はわが国の女性のためになることなら何事でも喜んでいたしますし、欠陥を見つけるよりも欠陥を未然に防ぐことに関心がありますので、先夜、上記クロスステッチ夫人の店に伺いました。店に入って行きますと直ぐに、私の来訪に備えていたと思われる娘さんの店員が私に何も言わずにその少女を紹介し、走って女主人を呼びに行きました。

人形はさくらんぼ色のガウンとペティコートを身に付け、姿をととても際立たせていたの

形が展示され、人形は「今年の着こなし」として知られていた。18世紀半ばまでは小さな人形だったが、その後等身大になった。

7) ゆったりとしたガウン（フランスマント）のこと。第80号参照。

ですが、丈の短いエプロンをかけていました。髪の毛はカットされとても可愛く分けられ、リボンがいくつかついていました。婦人帽販売人が確信を持って言うには、これはパリの最もお洒落なご婦人方の格好だということでした。頭はとても長いものでしたが、これについては随分以前に私の感想は述べましたので⁸⁾、ここで改めて触れる積もりはありません。また、胸元に小さな斑点がついていることが気掛かりでしたが、どういう意図があってそこについているのか、私には分かりませんでした。

ネックレスは極端に長く、両端が腰まで垂れ下がるように結わえられていました。これが敵国では帽子の紐の代わりをするのかどうか、わがイギリスのご婦人方にその機会があるのかどうか、わが国のご婦人方に真剣に考えて頂きたいと考えます。

人形のドレスを事細かに観察して、その全身を見直していましたら、こましゃくれた娘さんの店員が、私に向かって、ガーターの留め方がとても変わっているのですよ、と言いました。私はペティコートの下の方の2本の芯までそれなりの敬意を払いましたので、これについては、それ以上調べませんでした。

私としては、全体として、この陽気な婦人の外見に十分満足しました。かの国のほかのご婦人方とは違ってお喋りでないのでそれだけ一層満足しました。

お暇しようとしていたら、隣の時計屋さんと器用なパウエル氏の助力で、人形に小さなバネを組み込み、手足を動かせるようにして、パリの取引先に送り、現在フランスの宮廷で実践されているさまざまな頭の動かし方や胸の膨らませ方やお辞儀の仕方や優雅な足の動かし方や心地よい身のこなし方を教授してくれるように依頼しているところだ、と婦人帽販売人が付け加えたのです。

彼女はさらにそれが届いたら直ぐにでも私に見て貰いたいと付け加えました。だが、これはあまりにも重要な要請なので、即答はできませんでした。私は返事をせずに立ち去り、ウィル・ハニコームの宿へと道を急ぎました。私としては、この手のことを公開するには、ウィルの助言を抜きにはできないのです。

第278号 1712年1月18日（金曜日）

【スティール】

私なら、どちらかと言えば、頭を低くして
這い回るようなやり方を選ぶ。(ホラティウス)¹⁾

拝啓

貴殿は家族間の無秩序を矯正することでこのロンドンという町に大きく貢献なさっております。細君たちの中には夫の無秩序に対する貴殿の助言と指導を心待ちにしている人がいますので、小生もこの度貴殿にお願いする気持ちになりました。小生は店主をしてい

8) 第98号、第265号参照。

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.250-1

ます。若輩者ですが、経験上仕事をきちんとやっていくには（商売人では）夫婦の力を合わせた刻苦勉励に勝るものはないと考えています。結婚当初、妻は私の仕事をとても熱心に助けてくれましたし、小生はそれは彼女の気質のなせるわざだと信じています。ところが、最近彼女は、ギリシア語の知識を鼻にかける大学教授と知り合いになったのです。この大学教授はしばしば店にやって来て、彼女にギリシア語の美点や長所の話をし、ギリシアの詩人から何節か読んで聞かせるのです。そして、彼はそこにはほかの言語では全く見られない言語に絶する調和と心地よい響きがあるのだと語るのです。彼は専門用語を駆使して彼女を惑わせますので、彼女は店で以前のように勤勉ではなくなり、今では仕事をないがしろにし、家庭教師につきっきりになってギリシア語の断片を暗記している有様です。そして、暗記したギリシア語を折に触れて口にするのです。数日前のこと、小生は店ではラテン語を少々使っているのですが、それをギリシア語に変えるようにと熱心に助言するのです。彼女に言わせると、ギリシア語はあまり知られていないので、小生の仕事にはその方が似合っているとのことでした。そうすれば、紳士諸氏は一層小生に感謝するとのことでした。また、必ず商売が上手くいくとのことでした。要するに、彼女がしばしばこのこととかその他同様の押し付けがましいことを執拗に要求しますので、小生はとても不快に思っているわけです。小生の忠告は言うまでもなく貴殿の忠告までも効き目がないとなりますと、彼女を家庭教師と共にオックスフォード大学の籍を確保してやることで破産せざるを得なくなるのではないかと危惧しています。なぜなら、彼女は今ではベツレヘム精神病院でも受け入れて貰えないほど頭がおかしくなっているのですから。もし彼女が貴紙で自分のことを理解し、反省してくれませんか、わが家は危機に瀕し、妻が厄介で使い物にならない状態になることは目に見えています。彼女はとても学識がありますので、小生は口では彼女に勝てません。彼女はギリシア語で締め括った貴紙²⁾を読んで笑い飛ばし、これは女流文人へのあてこすりであり、翻訳して一般大衆の目にさらさないのはとても礼儀をわきまえていらっしゃる、と言ったのです。

敬具

前略

貴方は人々にそうだと思わせるほどの人情と思いやりをお持ちになっておられるので、非常に大切な事柄で貴方のご判断をあてにしています悩める乙女への助言を拒否なさらないと思います。実は、人柄、機知、ユーモアを誰もが認め、私と長い間恋愛関係にある感じのよい青年がいるのです。これに付け加えて置かなくてはなりません、（これが私の持っている虚栄心からなのか、恋人のうわべの誠実さからなのか、私は敢えて口にはしませんが）、私にとって、彼は心底大切な人なのです。もしその通りですと、正しく彼の長所は恋人がいて初めて増大することを貴方はお認めになられるに違いありません。要するに、私は彼の善良さと情熱に対する私の気持ちを承知していますので、もし彼の財産に対する異議が唱えられなければ、その財産は私の期待するほどのものでありませんし、よく

2) 第265号参照。

用いられる「彼女は道化役を演じた」のだという非難を受けなくて済むほど十分なものではありませんので、ほかの誰よりも素早く彼のことは諦めることができますものと考えます。さて、私は馬車と供回りやダイヤモンドや伊達男を心から軽蔑する数少ない人物の一人なのですが、今では私と反対の考え方が世の中、そうです、最も立派な方たちの間にさえ行き渡っており、非常に分別のある人たちからもそのように考えられていますので、私は実際のところ、聡明な方々の非難を招く決心がつかないのです。ですが、もし結婚して、私の財産を増やすことにならないにしても、それが大切だと分かれば、そのように心掛けたいと考えています。現在、私はしばしば見かける虚栄に左右されるべきか、恋人の声に耳を傾け、彼に気に入られているその気持ちに左右されるべきかどうかまったく決心がつかないという難儀な状態に陥っているのです。私を決心させられるのは、貴方の意見と助言しかありません。速やかにお返事を頂けますよう心からお願い申し上げます。貴方のお考えをお聞きするまでは、恋人には最終的な支払いはしないでおきます。

この件につきまして貴紙のスペースを割いて頂くことによって私には義務が生じますが、おそらく、これはほかの女性たちにとっても有益なことと思われます。貴方のお考えを聞かせて頂きますと、女性陣は等しく有難く思うに違いありません。

草々

フロリнда

追伸：実を申しますと、私はすでに彼と結婚しています。どうか、私の行為の正当化になることを述べて頂けますように。

拝啓

音楽を生業なりわいにしています私たちが、ヨークビルディングでの音楽の催しの宣伝をするために二度目³⁾のお願いを致しますこととお許し下さい。全体として私たちの意図がオペラを排除することにあることを巧みに伝えようとしているわけです。どうぞ、私たちの言わんとすることを貴紙に掲載して頂けるようお願い致します。私たちの目的は、ひとえに、私たちが生業としています技を向上させ、私たちの置かれています状況を改善させることにあります。私たちは私たちが置かれています状況は完全な壊滅的な状態だと考えています。私たちがオペラを持ち込んだ当人ですので、オペラ自体に異議を申し立てるべきだというのは根拠のない非難だと考えます。私たちが主張したいのは、さまざまな書き手の歌が無分別に寄せ集められ、現在上演されている作品に期待する外国の音色と様式が音楽自体を台無しにしているという点なのです。その結果、耳に入ってくるのは、場違いな賑やかさだけで、まっとうな精神も旋律の持つもの悲しさもいかなる情熱あるいは良識も伝わっては来ません。私たちとしては、有難くも私たちを支援してくださっています分別をお持ちの方々が、その支援を恥と思わず、支援することがオペラを支持するあるいは支持しないことになるのだといった気持ちを持たずに、心から自分たちの気晴らしをこれまで以上にまっとうで優雅なものにするのだという気持ちになって頂きたいものと考えます。

3) 第258号参照。

敬具

トマス・クレイトン

ニコリーノ・ハイム

チャールズ・デューパート

これに同意が得られるまでは、ヨークビルディングでの公演はありません。

第279号 1712年1月19日(土曜日)

【アディソン】

彼には一人ひとりに似合いの役の与え方が分かっている。

(ホラティウス)¹⁾

すでにミルトンの『失樂園』における筋と登場人物の概観は済ませました。そこで残っている検討すべき点は、アリストテレスの方法に倣えば、感情と言語です。感情について取り上げる前に、読者には、筋、登場人物、感情、言語という4つの項目を概観したら直ぐに、各項目で伺える長所と短所ならびにどの項目にも該当しないその他の点の実例を『失樂園』から引くのが私の構想だとお伝えしておかなくてはなりません。読者は全体を見ない限り、あまりにも性急にこの批評の出来不出来を判断したり、不完全なものとなししたりしないことを前提とするのが妥当と考えたのです。

叙事詩における感情は、作家が登場させる人物に帰属する思考と行動であり、その人物の性格に一致します。さらに、感情は人物だけでなく事物にも関わりを持ち、主題に適合する場合は完璧なものとなります。いずれの場合でも詩人が愛情あるいは憎悪、憐憫あるいは恐怖、あるいはその他の感情を惹起させるために論じたり説明したり、誇張したり減じたりするとき、詩人が用いる感情が目的にふさわしいものであるか否かを考慮すべきです。ホメロスは批評家たち²⁾から『イーリアス』と『オデュッセウス』の何箇所かに欠陥があると指摘されています。もっともこの偉大な詩人を公平に論じる人たちは、その欠陥をホメロスの生きた時代のせいにしてはいますが。ホメロスの感情のいくつかに、今でははるかに劣った人たちの作品に伺える繊細さが欠けているとしたら、それはホメロスのせいではなく、時代のせいだったのです。さらに、ある特定の思考に欠点があるとしても、思考の大部分には限りない長所があります。要するに、感情のある点でお粗末にならなかった詩人が多くいるとしても、誰一人抜きんでた詩人にはなれないのです。ウェルギリウスは感情の妥当性において他者に抜きんでています。同様に、ミルトンもその点で大いに異彩を放っています。また、ミルトンの名誉と名声に添えなくてはならないもうひとつの点を見捨てるわけにはいきません。ホメロスとウェルギリウスは普通に人々の間で知られて

1) ホラティウス『詩の技法』316

2) ラパンは、「ホメロスとウェルギリウス」で、ホメロスの感情の卑俗さを批判しているが、それは彼自身のせいではなく、思考、道徳の点で洗練されていなかった時代のせいにした。ル・ボシュも同じ立場を取った。

いる人物を登場させます。そして、彼らは歴史ないし日常の交わりで出会うような人物なのですが、ミルトンの登場人物の大半は自然界に見い出される者であって、純粹に彼自身が創造した者なのです。シェイクスピアの素晴らしい天分を示すのは、ホットスパーやジュリアス・シーザーを描いたことよりもむしろキャリバンを描いたことにあります³⁾。つまり、キャリバンはシェイクスピア自身の想像力の産物ですが、ホットスパーやジュリアス・シーザーは伝統、歴史、および言説に基づいて作られたものです。それゆえ、ミルトンが独特の人物を配して黄泉の国の会議に変化を与え、彼らにさまざまな感情を注入したことよりも、ホメロスがギリシアの大將たちの会議でそれにふさわしい感情を見出すほうが簡単だったのです。デイドとアイネイアスの恋は、ほかの人物にある恋のコピーに過ぎません。墮落前のアダムとイヴは、二人を祖とする人類とは異なった種です。無限の創造力とこの上なく洗練された分別を備えた詩人にしか、二人の会話と行動に無垢の状態の数多くの適切な出来事をちりばめることは不可能です。

叙事詩は同時に崇高な思考が満ちていない限り、自然な思考がちりばめられているだけでは不十分です。この点では、ウェルギリウスはホメロスに劣ります⁴⁾。実際には、ウェルギリウスには低俗な思考はそれほど多くありませんが、崇高で気高い思考もそれほど多くありません。実は、ウェルギリウスの場合、驚くべき感情にまで高まっていくことは稀です。彼はホメロスの影響を受けてはいません。ウェルギリウスは全編彼自身の才能の力によって、私たちを魅了し、満足させるのです。彼が私たちの気持ちを高揚させ、夢中にさせるのはホメロスとは無縁なのです。

ミルトンの最大の才能であり実際に際立っている点は、彼の思考の崇高さです。そのほかの点では、現代の詩人たちの中に彼に匹敵する人はいますが、感情の偉大さという点では、古今の詩人たちの中で、ホメロスだけは例外ですが、ミルトンが群を抜いています。第1巻、第2巻および第6巻で繰り広げられているほど卓越した考えを展開することは人間の想像力では不可能です⁵⁾。天地創造について語る第7巻も同様に、実に崇高なものです。もっとも、第7巻にはあまり行為がありませんので、読者の心にそれほど感動を引き起こすこともなく、そのため、叙事詩の書き方としてはあまり完璧とは言えませんが。賢明な読者は、ロンギノスがホメロスについて述べている点と比較して見てください⁶⁾。『失樂園』との類似点が多くあることが分かって頂けます。

以上のことから、感情には、英雄詩では常に追求される自然と崇高という2種類の感情がありますように、思考にも注意深く避けなくてはならない2種類の思考があることが推

3) 想像力を超自然的で独自のものを創り出す詩人の能力と考えるアディソンは若干時代に先駆けている。17世紀および18世紀初頭の大半の批評家にとっては、詩人の想像力は可視的な素材を対象とし、創造性は現存の素材から新機軸を創り出すことにあった。

4) サー・テンプル「詩について」参照。

5) ジョン・デニスは、『ビュプリスの熱情』（1692年）の序文で、この3巻には非常に崇高なものと述べている。

6) ロンギノス『崇高について』9

論できます。第1は見せかけの不自然な思考であり、第2はさもしく低俗な思考です。第1の思考に関しては、ウェルギリウスにはほとんどありません。彼にはオウィディウスでしばしば見かける些細な点や幼稚な点もルカヌスのような警句のようなひねりもスタティウスやクラウディウスに類出する尊大な感情もタッソのような雑多な装飾も何一つありません⁷⁾。すべてが十分根拠があり自然です。彼の感情を見ていると、彼が人間性に対する優れた洞察力を持っていたこと、そしてまた、彼には何がどのような影響を与えるのかすべて熟知していたことが分かります。

いずれ触れることになりますが、ドライデン氏はこの点では『アイネーイス』を翻訳する場合に、ところどころでウェルギリウスの思考方法を誤解しています。実際には後世の誤った洗練さだったのですが、上記の欠点はホメロスにはどこにも見当たりません。また日を改めて詳しく述べますように⁸⁾、正直言って、ミルトンもこの点では時折ミスをしています。もっとも彼の同時代の詩人たちがすべてこの間違った思考方法の影響を受けていることを考慮しますと、ミルトンが時々現代の作家たちに広く行き渡っています悪趣味に従ったことよりも、むしろ深みにはまらなかったことを称えるべきなのですが。

ところで、低劣で卑屈な思考が自然な場合もありますので、叙事詩人は不自然で見せかけの感情だけでなく、さもしく低俗な感情を避けなくてはなりません。ホメロスは、ありふれた感情を表現することによって、天分よりも繊細さが勝った人物を嘲笑するといった素晴らしい分野を切り開きました。以前にも述べたように、こういったことは彼の生きた時代の単純さのせいにすべきなのです。これに対して、古代では神聖詩人ゾイロス⁹⁾が、現代ではペロー氏¹⁰⁾が、このような感情があるからということで、その欠陥を取り上げてホメロスのことを嘲笑したのだと付け加えて置きます。この点ではウェルギリウスには何一つ汚点はなく、ミルトンの場合もほとんど見当たりません。

ホメロスの不適当な思考をひとつだけ取り上げ、ウェルギリウスとミルトンの同種の例と比較してみたいと思います。笑いを喚起させる感情は、それよりもはるかに気高い感情を掻き立てることを本分とする英雄詩には作法上認められません。しかしながら、ホメロスは、ウルカヌス¹¹⁾とテルシテス¹²⁾の描写、マルスとウェヌスの物語¹³⁾、イーロスの振舞い¹⁴⁾、およびその他の箇所、茶化した調子になり、叙事詩の持つ荘厳さに不可欠と思える厳粛な雰囲気から逸脱しているのが分かります。『アイネーイス』の場合は全編を通して1箇所だけ笑いを喚起させるところがあります。それはメノエテスについて語る第5歌

7) 当時、オウィディウス、ルカヌス、スタティウス、クラウディウスは、「偽りの機知」とひと括りにされた。

8) 第297号参照。

9) ゾイロスは紀元前4世紀のギリシアの修辞学者で、ホメロスを酷評した。

10) ペロー（1628-1703）は、古代の詩人よりも現代の詩人の優位性を説こうとした。

11) 『イーリアス』1.595-600

12) 『イーリアス』2.211-77

13) 『オデュッセイア』8.266-366

14) 『オデュッセイア』18.1-107

で、荷を積みすぎた船から投げ出され、岩の上で濡れた衣服を乾かしている場面です¹⁵⁾。だが、この陽気さは時宜を得たものですから、どれほど厳格な批評家も異議を唱えることはできません。なぜなら、これは、読者がその楽しみをゆったりとした気持ちで味わっている競技と気晴らしの巻なのですから。『失樂園』で唯一愉快な場所は、悪魔たちが新発明の兵器がうまくいったことで天使たちをからかっている箇所です。この箇所は地口の連続でそれもさして重要でない地口ですので、『失樂園』の中では例外中の例外だと考えます。

……この窮状を見たサタンは、嘲笑の笑みを満面に浮かべながら、仲間に向かって呼びかけた。『おお、わが戦友たち！ 勝ち誇っていたあの連中が進撃してこないのはぜだと思ふ？ 先程まであれほど猛烈な勢いで攻め寄せていたのに、こちらが歓迎の意を表し、面を綻ばせ胸襟を披いて（これ以上の歓待が他にあらうか？）、和睦の条件を提示したところ、なんと忽ち心を変え、逃げ出し、果ては誠にもって奇々怪々たる馬鹿騒ぎを始める始末だ。踊りでも始めたつもりらしいが、踊りにしては誠にもって奇矯かつ乱暴なものではあるまいか？ 恐らく、平和の申し出を受けて驚喜の余り、気が変になったのかもしれぬ。だが、もう一度、われわれの轟々たる提案が耳に入れば、さすがの彼らもきりきり舞いして音をあげることは必定だと思ふ』

サタンがこう言ったのに対し、ベリアルもさも面白そうに言った。『指揮者よ、まさに然り！ われわれの送った条件が大きな重味と強硬な内容と痛烈な威力を持っていたと見え、げんにわれわれも目撃した通り、彼らは度肝を抜かれ、転倒する者引きもきらぬという有様であった。何しろこちらの条件を正面に受け取った奴は、頭の天辺から足の爪先まで、粉骨碎身、分かってくれたし、分からない奴は、条件の威力に足を抄すくわれたらしく、まともに立っていることも出来なかった』

彼らは、勝利はもはや疑いなしと信じ、意気軒昂、相手を嘲りながら、楽しげに互に談笑して立っていた¹⁶⁾。……

第280号 1712年1月21日（月曜日）

【スティール】

偉大な人を満足させるには、なみたいていのほめ言葉
ではおさまらない¹⁾。（ホラティウス）

人を満足させたいという欲求は、その気持ちになるときの動機次第で人を心地よく思わせたり不快にさせたりするものです。人を満足させたいという気持ちが生得的な善意から生じる場合には、必ずうまく行きますが、拔きんでたいという虚栄心から生じる場合には、

15) 『アイネーイス』 5.158-82

16) 『失樂園』 6.607-29 『失樂園』の箇所は平井正穂訳（筑摩書房）による（以下同）。

1) ホラティウス『書簡詩』 1.17.35

期待はずれに終わるのは間違いのないところです。感じがよいと思う人には、生まれながらにして喜んで物事を処理する気質が備わっています。気取った言動というものは、洒落者の要素となります。以上の指標に基づいて、黙劇以外で異彩を放つさまざまな人物を描き出すことが可能です。持ち前の上品な思考から流れ出る繊細な感情で他者を満足させる才能を備えた人物には、分別のある上質の会話が成り立ちます。ところが、雑多な人たちの集いには、往々にして、陽気なふりをする人たちが集まり、通常、不自然で不快でひどい科白が飛び交います。時々、まさに満足させるために生まれており、その人の言動には関係なく、つまり、たいしたことを行ったり言ったりしなくても、周りのすべての人々を虜にしてしまう人物に遭遇することがあります。この至福は持って生まれた才能だけでなく、打ち解けた言動に感じのよい人物を際立たせる威厳を付け加える幸運な事情が伴わなくてはなりません。以上のことから、誰もがポリカーパスを愛し評価するのです。彼は元氣盛りで陽気な人物ですが、非常に人目につく出来事を経験しています。彼は兵士ではありませんが、いざという時には危険を分かち合い、勇敢かつ寛大な行動を取ります。彼にとっては不必要なのですが、ただ他人を目立たせる資質を備えていることが、彼の無頓着な行為を引き立たせているのです。商人にとって周知の信用が即金であるように、紳士にとっては、即座に際立つのは定評のある美点であり、この美点が供回りの代役を務めます²⁾。このことによって、ポリカーパスの陽気さは奥ゆかしいものとなり、仕事で評価され、ありきたりのあらゆる出来事の場合も愛情を注がれます。ところで、こういった長所を備えている人物のことを長々と述べることはやめて、他人を満足させる方法について考えてみます。以上の長所を備えていると自負できない人々は、これで世渡りをして行くに違いありません。目上の人の気質やマナーに同調することは、立派な振舞いの一般規則から引きますと、隷属者の生き方となります³⁾。居候は最も卑しい召使と何ら変わりがありません。肉体労働をするために雇われている従僕は、主人の意を受けて動き回りますが、居候はまさに魂そのものを放棄しているのです。居候は金のために喋り、歓心を得ようとする人物と同じ思考をしているふりをします。パトロンへのこのような隷属は、本来、お仕着せを着た隷属よりも嘆かわしいものです。それゆえ、ここでは立派で気高い方法についてのみ取り上げたいと思います。

身分の上下を問わず、満足させようとする幸福な才能は、全面的に誠実さに対してどのように考えているかによります。この資質は感じのよい人物のあらゆる行為に伴います。誠実さというものは敵対者までも丸め込む力を持っているものだと思います。罪を犯した人物は、公正に死刑判決を下す裁判官に敬意を払います。本日の紙面の冒頭を飾る一文の作者ホラティウスは、人間性に対する優れた鑑定家で、これまでに見られないほど心地よい人生を送りました。アウグストゥス⁴⁾は友に囲まれ、まるで自らの宮廷で身代を作るかのような暮らしをしました。付与された強大な権力に付随した率直さと感じのよさが、な

2) 第218号参照。

3) エイブラハム・カウリー (1618-67) 「自由について」。

4) 『タトラー』第173号で、スティールは同じような論を展開している。

みいる立派な人々の中であって、彼をこの上なく感じのよい人物に仕立てたのです。彼らはあまりにも高慢な考えを抱いており、あまりにも大きな期待を持っていたために、相互の会話の喜びがなく、帝国の譲渡において提供されることに満足することができなかったのです。同一の身分の人たち全員に当然備わっているある種の品性と判断力がこの社会を結びつける絆だったのです。アウグストゥスは、皇帝という地位に対して特別に構えることはせず、ただ彼の個人的な才能と資質から引き出せることを行ったに過ぎません。そのことが人々の喜びと感情を向上させるのに役立ったのでした。

狡猾な人や偽善者はすべて、徳も知恵も中途半端であって、会話で財産のことを完全に排除できる人たちの洗練された喜びを味わうことはできません。ホラティウスは、私が本日の思索のヒントを得た論文の中で、権力者との会話での振舞いの素晴らしいルールを規定しています。自分に関わることに對してはその適用の必要がない人のような調子で語ります。これを読みますと、懇願への警告と欲求を控え目に語ることがどれほど有効であるかを示すことで、彼には巧みな廷臣というものはどういった人物かが分かっていたのです。実際、あらゆる機会を捉えて自分自身の事情を話すことはとても厚かましいことなので、頼りにする人に後ろめたく思う人は、自らの苦の種をさらけ出す乞食のような振舞いをするようになります。それは同情を喚起させることはなく、頼っている人に目的そのものからそっぽを向かせてしまいます。

私にはどうすればよいか分かりませんが、16年ほど前のある正直な人物のことが思い出されます。その人物は当然のことながら、自分の欲求をあからさまに口にすることがいかに自分を嫌な人物にするかが分かっていたので、私に言わせると、彼はまさしく以前に触れたことがあるイーロス⁵⁾の片割れなのです。このところ長らく散歩で見かけていませんが、しばらく軍隊にいたとの噂がありますこの人物は、貧しい職人にとっては作業用の道具が鍵を握っているように、貧しい居候にとっては立派な鬘と上品なりネンと快活な雰囲気⁶⁾が鍵だというのを処世訓にしたのです。二日間断食していた彼が人々が言う貧弱さを彼が最近関わった色事の激しさのせいにしているのを知って、彼の事情が分かっている私は大いに愉快に思いました。巧みな偽善者は、まったく関係のない対応の仕方をしたのです。そこで、誰かが彼の情事が限られたものであると疑ったとしても、それは非難の余地のない貧困というよりはむしろ、当世風の悪癖に耽ったせいにしたのです。そのことで、彼は頼りにする人たちの信用を無くさないですんだのでした。

重要なことは、出来る限り厄介をかけないで、つまり、自分から申し出ないでパトロンから好意を寄せるようにすることです。ところで、私はここでは、シティーや町や宮廷や国で、相当なものを身につけているのだが、確実な人生を歩むことが出来ず、次々にしくじっている人たちが数多くいるとき、うまく世渡りをして行くための満足させる方法についてお話をしています。それゆえ、満足させる方法に倣って、私の探求を縮めることができると考えます。年老いた伊達男が息子に「ジャック、頼むから立派な紳士になるのだぞ」

5) 第264号参照。

ときっぱり申し渡したように、私も読者の皆さんに向かって、指示を短くして、満足させることは「金持ちになるのです」の一言で終わらせることができます。

第281号 1712年1月22日（火曜日）

【アディソン】

そして、心配げに脈打つ内臓を見て。(ウェルギリウス)¹⁾

すでに、伊達男の頭の解剖については、そこでのいくつかの発見について説明を終えましたので²⁾、ここでは、約束どおり、あだっぼい女の心臓の解剖に話を進め、好奇心をそそのめるその解剖³⁾で観察した事柄を皆さんにお伝えしたいと思います。

伊達男について行ったように、あだっぼい女についても取り上げて欲しいと執拗にせがむ無名の寄稿者数人との約束を思い出していなかったら、おそらくこの仕事は先延ばしにしていたに違いありません。そこで、友人の皆さんの要請に従って、その正確な関係をお伝えするために、以前の夢の細部を調べてみました。これ以上前置きをしないで、早速この件に入っていくことにします。

わが手術者は、この幻想的な解剖に手を付ける前に、私たちに向かって、あだっぼい女の心臓には、普通の人の心臓にはない迷路や凹所が数多くあるので切開するのはとても厄介なのだと言いました。

彼はまず、心嚢^{しんのう}つまり心臓を包む膜状のふくろを観察するようと言いました。そこで私たちはとても注意深く観察したのです。顕微鏡で見ると、無数の傷がついているのに気づきました。どうやらその傷は時々外膜をかすめる数え切れないほどの槍や弓の切っ先が原因のようでした。もっとも、私たちには、内部まで到達したと考えられるごく小さな穴を見つけることは出来ませんでした。

解剖の知識が不十分な人でも、心嚢つまり心臓を包む膜には心臓から吐き出され、そこに留まりこの液体に凝縮する気体から生じると考えられる淡い赤味を帯びた分泌液があることを承知しています。この分泌液を調べて見ますと、天候の変化を示す寒暖計で使われる心のあらゆる気質が含まれていることが分かりました。

ここで私はこの中の一人が自分でもこの分泌液を扱ったことがあると言った実験のことを無視するわけにはいきません。以前解剖したあだっぼい女の心臓にはこの分泌液が大量にあったとのことでした。彼は気圧計に倣って分泌液を実際に小さな管に入れたことがあると断言したのです。ところが、それは大気の変化を知らせずに、部屋に入ってくる人々の性質を教えてくれたのです。彼はまた、羽毛や刺繍入りのコートや房飾りつきの手袋が近づくとその液が上昇し、形の悪い髪や不恰好な靴や流行おくれのコートが近づいて来る

1) ウェルギリウス『アイネーイス』4.64

2) 第275号参照。

3) ナサニエル・ウォンリー（1634-1726）は『小世界の不思議』（1678）で「心臓について」という章を設けている。

とたちまちその液が下降したのだと断言しました。それだけに留まらず、そばで大きな笑い声を上げると、その液は目にはっきりと分かるほど上昇し、真面目な顔つきをしますとすぐさま下降したのだとさえ確信を持って言いました。要するに、彼が言うには、この発明品があれば、部屋にいる人が良識を備えた人なのかあだっばい女なのか直ちに分かるということでした。

心嚢つまり外膜および分泌液のことは終わりましたので、つぎは心臓そのものです。心臓の外面は非常につるつるしており、おまけに微突起はとても冷たいので、これを掴もうとしますと、すべすべした氷片のように、指の間をすりりと滑り落ちました。

繊維組織は通例ほかの人のものよりも複雑に入り乱れ、曲がり振れていました。心臓全体がまるでゴルディオスの結び目⁴⁾のように絡み合っていました。そして、これは極めて重要な役目につくとき、この上なく不規則でむらのある動きをしたに違いありません。

注目すべきことが一つありました。つまり、心臓に入って来るあるいは心臓から出て行く血管を全て調べてみますと、いずれの血管も舌とのつながりが見つからなかったのです。

同様に、愛情、憎悪、あるいはその他の熱情に影響する心臓の小さな神経が、脳からではなく眼の周囲の筋肉から下りてきていることを無視するわけにはいきませんでした。

心臓を手にとって重さを量ってみますと、実に軽く、したがって、空洞になっているのだと思いました。心臓の内部を見て、わが史家たち⁵⁾が述べるロザモンドのあずまやの部屋のように、お互いに行き来できる小室や腔^{くう}が数多くあることを不思議には思いませんでした。小さな空洞のいくつかには無数の下らないものが詰まっていました。私はそれについては詳細を述べるつもりはなく、一点だけ大切なことを言っておきたいと思います。つまり、その空洞を開いて顕微鏡で見てみますと、どうやらそのひとつは炎色のフード⁶⁾だったのです。

この心臓の持ち主は、存命中、数名から言い寄られていましたが、それぞれに色よい返事をしただけでなく、全員に自分にこそ気があるのだと信じ込ませたとのことです。このため、心臓のいくつかの壁には多数の顔の刻印があるものと期待しましたが、非常に驚いたことには、心臓の核心に至るまでこの種の刻印はひとつも見つかりませんでした。核心には、顕微鏡を当ててみますと、とても奇抜な服装をした小さな像が浮かび上がりました。よくよく見てみますと、以前にどこかで見かけた顔に思いましたが、どこで何時会ったのか思い出せませんでした。だが、この像をほかの誰よりも綿密に見ていた人が、心臓の中心部に居座っているこの小さな像は、顔の形状および特徴からして、明らかに私が先週火曜日に取り上げた頭の持ち主である最近亡くなった伊達男に違いないと言ったのです。

解剖が終わりますと直ぐに、私たちにはさまざまな点で普通の女性の心臓と異なるこの心臓が一体どうなっているのか分かりませんので、実験に取り掛かることにしました。そこで、真っ赤になった石炭にかけた平鍋に心臓を載せました。すると、燃え盛る火の中で

4) プルタルコス「アレキサンダー伝」18.1-2

5) サー・リチャード・ベイカー『年代記』(1684) 参照。

6) 第265号参照。

も、燃え尽きることも焦げもせずに生きることが出来る火とかげ⁷⁾の性質が備わっていることが分かりました。

私たちがこの不思議な現象に感嘆しながら心臓を取り囲んで立っていると、心臓がとても大きなため息とかひび割れのような音を発して、たちまちにして煙と蒸気となって消えたのです。私には大砲の破裂音よりも大きく思えたこの架空の音は、私の脳に激震を与えたので、眠気を吹き飛ばし、パッと目覚めたのでした。

第282号 1712年1月23日(水曜日)

【スティール】

期待と不安が相半ばする。(ウェルギリウス)¹⁾

一般に不幸が降りかかると、誰もが不満たらたらになって移り気な運命に文句を言い、悲しみと失望を増大させてしまうのは嘆かわしいことです。人の心を駄目にする最大のものは、楽観的に自己満足させてしまう間違った期待を抱くこと、つまり、そうなると信じる根拠もない好都合なことに気持ちを傾けてしまうことなのです。このように幸福を根拠もなく計算することによって、人々はしばしば架空の損失に心を痛めて悲しむことになります。この不幸な自己弁明の方法について語るとき、自分に有利に、可能性のあるあらゆることをほぼ確実に起こりうる、要するに、確率は九分九厘だと考えてしまう一連の人たちについて考えざるを得ません。自分がある婦人を特別な目で見ていることを私に気づかれたと知ったウィル・ハニコームは、奇麗な顔を台無しにしてしまい、とても感じのよい人物を塞ぎ込ませてしまった大きな悩みについて話すのでした。ウィルの語るところでは、その婦人と二人の姉妹は、14年前には町で名立たる資産家だったとのこと。ところが、悪質な店子とか回収不能な有価証券とかによる損害もなく、また、海陸での被害もないのに、今では極めて困窮した状態になっているのです。彼女たちはその昔は町で最も近づきたいお高く留まった美女たちでした。彼女たちの自負心は途方もないので、つぎのようなものでした。恋人たちは誰もがこの手でやり返されたのでした。

私たちの父はまだまだ若く、母はいくらか年を取っていますが、子供がいるようには見えません。父の資産は年8百ポンドで、20年の上がり高にすると1万6千ポンドになります。50歳を超えています叔父は年4百ポンドで、20年にすると8千ポンドです。未亡人となった伯母がいますが、夫の残してくれた1万ポンドが彼女の自由となります。そして、6千ポンド持っている独身の叔母がいます。さらに、父の母には年9百ポンド、20年で1万8千ポンドあり、私たち姉妹三人にはそれぞれ1千ポンドきます。以上を合計しますと、父(年8百、20年で1万6千)+叔父(年4百、20年で8千)+伯母・叔母(1万+6千で合計1万6千)+祖母(年9百、20年で1万8千)+自分たち(各自1千で合計3千)これ

7) 第198号参照。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』8.580

ら総計で6万1千ポンドとなります。これを姉妹三人で均等に分けますと、一人2万ポンドです。これに私たちの名声に与えられる手当てを入れますと、3万ポンドが法的に認められることになります。

この資産、および彼女自身の真価に対する認識を当てにして、誰をも蔑んだのです。そこで、彼女たちは頻繁にあった申し出をはねつけました。ところが、結果はつぎのような次第なのです。母は亡くなり、父が再婚し、息子が生まれ、父、伯父、祖母の資産はすべて、その息子に限嗣相続の形で譲与されたのです。これによって4万3千ポンド奪われました。独身の叔母は立派なアイルランド人と結婚しました。これによって6千ポンド消えました。未亡人の伯母が亡くなり、伯母の借金と埋葬の費用を払えば後にはいくらも残りませんでした。その結果、姉妹三人には一人1千ポンドだけしか残りませんでした。彼女たちは今では盛りを過ぎ、30歳の不興を買っています。そして、彼女たちは人々が金のことしか気に掛けていないことに文句を言いながら、また、徳も良識も謙虚さも顧みられなくなっていることを嘆き悲しみながら、余生を送らなくてはなりません。

私がほかの誰よりもこの婦人たちのことを取り上げましたのは、それが修復不可能な事柄だったからです。なぜなら、若さというものは熟慮できない時期ではありますが、女性が幸運を掴む唯一の時期なのですから。ところで、男性に目を向けてみますと、何一つ根拠のない期待を抱くために陥る、憐憫に値するのか軽蔑に値するのか言い難い、不幸な人が大勢います。従者をして年を取り、隷属して半生を過ごした人物が、自分ほど不幸な人物はいない、頼りにしてる人が約束を破ったので落胆したと言っているのを見かけるのは、不愉快なことではありません。自分の資産ないし労働から自然に得られる以外のものを期待し、しかも獲得したうちの3分の2以上は所有したいという欲望を抱く人は、苦痛と失望の種を必要以上に背負い込むことになります。人々を味方に引き入れる方法は二つしかなく、感じがよいか注目に値するかのどちらかなのです。大多数の間人は、自分のために物事を行います。目上の人に何かを期待し、自分がそれだけ感じがいいとか重宝だと言えない場合は、見捨てられたときに自分は不幸だと言い募るのは馬鹿げています。無視されるはずはないと考えるのは自分に分別がない証拠なのです。パトロンを満足させるあるいはパトロンの役に立つには、気質あるいは関心が感じがいいか注目に値するかのいずれかでなくてはなりません。

生活のあらゆる喜びを避ける人物と喜びの追求を本分とする人物を比較することは、無益なことだとは思われません。世捨て人は希望を持つことで、禁欲生活は快適なものとなりますが、享樂的な人が楽しみから獲得するものは、不安以外の何ものでもありません。節制からやせ衰えている人物と過剰に耽溺している人物では、幸福の違いはどこにあるのでしょうか？ 俗事を放棄する人は、嫉み、憎悪、悪意、怒りに誘惑されることはなく、心は絶えず平穏です。だが、喜びというものは本来裏切られるものなのですが、喜びを追い求める人は、絶えず不安、孤独、悔恨、および混乱を追い求めることになります。

拝啓

1712年1月14日

私は若い娘で、果報を待っています。そのため、お祈りを捧げ、愛情を獲得するために

定期的に教会に行きます。ところが、私のこの目論見にとって大きな邪魔をするのが牧師さんなのです。かつては庭師をなさっておられましたこの牧師さんは、先だつてのクリスマスには、教会中を緑で飾り立て、見通しがすっかり悪くなってしまったのです。そのため、私たちは二人とも絶えずお祈りに出掛け、席も3つ以上空いたところには座らないのですが、この三週間というものが私に掛けています若い准男爵様の姿がほとんど見えないう有様なのです。今も緑で飾り立てられています教会は、お祈りの場というよりも温室のように見えます。中央の通路は、実に見事な陰のある散歩道であって、信徒席は両脇に散歩道のあるあずまやのようです。説教壇にはつたやヒイラギやローズマリーが絡まっており、信徒席にいるある軽妙なお方は、それを見て、会衆はモーセ²⁾のようにやぶの中からお言葉を聞くのだとおっしゃいました。特に、聖アントニウスの愛の席は生垣で見事に囲われていますので、私の放つ砲列はことごとく効果を発揮しません。私は枝の間から、狙いも定めず出鱈目に放つしか手がありません。お願いですから、観察者殿から緑を取り払うよう命令を出してくださらないと、私は教会ではとてもばつが悪いことになってしまい、お祈りを捧げるしかほかに手立てがなくなってしまうと思います。私は急いでいます。どうぞよろしくお願い致します。

敬具

作り笑いを浮かべるジェニーより

第283号 1712年1月24日(木曜日)

【バジェル】

なだめるのは知的な必要であり、激しい渴望感だった。

必要が主人を教え、主人が必要を教えた。(ペルシウス)¹⁾

ルキアノスは、実際に必要な資質として富を認めるべきかどうか意見が一致しなかった当時の賢人たちをからかいます。厳格な学派の賢人たちは富を排除しましたが、それ以外の賢人たちは断固として富を認めるのでした²⁾。

世の中が洗練されるに連れて、当初の硬直した考え方が完全に放棄された、と私は考えます。現在では、豊かな財産を持つことに大きな利点があることを否定するほど大胆な人はい見当たりません。実際、れっきとした賢人たちはおそらく世間が喜びと呼ぶ大半のことを軽蔑するかもしれませんが、彼らもまた、ほどほどの富を持つことによって、人々の性格、分別、および行為に重みと威厳が付与されることに気づいているものと私は考えます。

専門職や商いをしている人たちの中では、もっぱら最も富める者が勢いづくことが不満の種になっています。これを少なくとも恩恵を必要としている人々に絶えず恩恵を注いでいる人のひねくれた性格のせいにするのは間違っています。一方、この場合の彼らの行為

2) 『出エジプト記』第3章第4節。

1) ペルシウス『諷刺』プロローグ10-11

2) ルキアノス『宦官』3.3-4

を公平に判断しますと、その行為は確かな根拠に基づいたものであることが分かります。双方に生来の誠実さが等しくあると考えられますので、当然の用心として、赤裸々な金銭の誘惑のない人よりもむしろ困窮者の卑怯なやり方を危惧すべきなのです。

同時にこの理由から、国は最も豊かな臣民こそが国の平穏と利害を気遣っているのであって、最高の仕事を委ねるのに最適の人物と見なします。一方、カティリナが自分に身を捧げ、のちにその連中でもって軍隊を構成することになった最底辺の人たちについて、「彼らには内乱にしか希望はない」³⁾のだと言ったことは、まさに当を得ており、彼の望む効果が出たのです。

本日の紙面のテーマの言い訳としては、わが読者の大半にとっては、お金を礼賛して語っているこの内容だけで十分だと私は考えます。私としましては、「財産の増やし方、つまり、金持ちになるコツ」を書くのが私の意図なのです。

この目的を達成する第一にして最も確実な方法は、「儉約」です。全員が平等にお金を手に入れる資格を持っているわけではありませんが、儉約を実行することは誰にでも同じように可能です。大半の人は、これまでの生活を振り返ってみて、不必要に使った小額を貯めていれば、今ではそれなりの資産家になっていたことに気づくものと思います。「儉約」のつぎに大切なことは「勤勉」です。これら二つはつぎに掲げるのイタリアの3つの諺で見事に表現されています。

1. 「自分で出来ることは他人にやらせてはいけない」
2. 「今日出来ることを明日に延ばしてはいけない」
3. 「わずかな出費をないがしろにしてはいけない」

金持ちになる上記3番目の方法は仕事の方法ですが、上記1と2と同様に、3つとも最も貧しい人たちにも実行可能なことです。

当時最も偉大な政治家の一人だったデ・ウィットは、彼が関わっている夥しい数の案件をどうやって処理するのかと友人から尋ねられて、「一度に一つのことをやる」のがコツだと答えたのです。何か処理しなくてはならないことがあれば、それが終わるまでほかのことは何も考えないのだと彼は語ります。何か国内問題に目を向けなければならないときには、その問題が片付くまでそれに専念するというわけです⁴⁾。

要するに、しばしば鈍重な人が規律正しく秩序立てて仕事をこなすことで大きな資産を獲得するのを見かけることがあります。規律正しく秩序だった気質がなければ、活発な想像力は幸せな結果をもたらすよりもむしろ、事態を当惑させるのがおちです。

以上のことから、分別のある人なら誰でも、その気になれば、大半の人が人生のある段階では必ず金持ちになれるのだということを格言として規定できる、と私は思います。時々、大きな能力を備えた人物がそうっていないのを見かけるのは、彼らがほかの何かを大切

3) サルスティウス『カティリナ戦記』20.13-15

4) デ・ウィット (1625-72)『オランダおよび西フリースランド共和国の実益と政治的原則』(1702)に「きちんとやって、後ろを振り返らないことが、オランダのやれる最大の政策だ」との表現がある。

にして、富を軽蔑するか、人生のあらゆる楽しみや喜びを享受しながらも、自分のやり方でなければ、資産を持つことに満足しないかのいずれかだからなのです。

だが、こういった金持ちになる普通のやり方に加えて、人生のあらゆる事情は言うまでもなく、天分の入り込む余地があることを認めなくてはなりません。

金を手に入れる方法は以前から限りなくあり、近年でも新しい方法が数多く見つっていますが、いまだに未開拓の分野でもありますので、普通の人でも、容易に、これまで誰も思いつかなかったような、人生の道案内とか支えの計画を練ることができるに違いありません。

日々、貪欲で巧妙な人たちが、この点で創意工夫の才能を発揮した方法を実行に移しているのを見かけます。

有名なイタリアの喜劇役者スカラムッチア⁵⁾は、パリでお金がなくなり困り果てはとき、パリの有名な香料商の戸口まで足しげく出掛けて行くことを思いついたということです。そして、誰かがかぎタバコを買って出て来ると、必ず所望することにしたのです。彼はこうしてさまざまな種類のを混ぜ合わせて一定の量になると、その香料商に安い値段で売りつけたのです。香料商はそのトリックを知って、これを「万華のかぎタバコ」と名づけたのです。この話の続きによると、急ぎすぎたために金持ちにはなれませんでした、彼はほどほどの糧を得たということです。ある日、彼はあるスイス人将校のかぎタバコ入れから失敬しすぎたために、いざこざを起こしてしまい、やむなくこの巧妙な生き方を断念せざるを得なくなったとのことでした。

私としましては、ここで、わが国のある若者への評価を無視するわけにはいきません。この若者はまだ12歳にも達していないのですが、熱心な努力によって、歩兵の顎をむちで打つわざを手に入れたのです。信頼できる情報によりますと、彼はこれによって自分と母親を養うだけでなく、戦争が続く場合に備えて、軍旗とまではいかないにしても、少なくともドラムを買うことを考えて、お金を貯えているとのことでした。

最後に、名高いラブレーの方策を取り上げたいと思います。彼がパリから遠く離れ、その地での出費をまかなうお金がなくなったときのことです⁶⁾。苦境に立たされたこの巧妙な作家は、レンガくずを手ごろな量だけ掻き集めて、いくつかに分けて紙に包み、ひとつには「王弟殿下用の毒」、ひとつには「王太子用の毒」、ひとつには「国王用の毒」と記しました。彼はフランス王室のためにこれを準備すると、詮索好きで忠実な臣民である宿の主人の目に留まるような場所にそれを置きました。

この策は彼が望んだとおりのうまく行きました。主人はすぐさま国務大臣に知らせ、国務大臣も直ちに特使を派遣し、反逆者を宮廷に連行させ、道中での宿は国王の出費で提供したのです。この反逆者が名高いラブレーだと分かり、粉末は調べて見ると無害だと分かると、単なる戯れとして一笑に付されただけでした。ラブレーほど著名でないいたずら者だ

5) 元々イタリア即興喜劇で空威張りする道化役。ここでは、1673年にイタリアの役者をロンドンに連れて来て、スカラムッチア役を演じた役者ティベリオ・フィオリロのこと。

6) 『ラブレー作品集』(1708)の伝記参照。

ったら、ガレー船送りになっていたのは間違いありません。

通商の場合にはおそらく実にさまざまな方法があるに違いありません。そこにはまだ明らかになっていない色々な方法が生まれているはずです。有名なドイリーはまだ皆さんの記憶に新しいところです。彼は安価で上品な素材を見つけて一財産なしたのです⁷⁾。もし彼が私たちの自尊心を満足させるこの安上がりの方法を見つけていなかったら、先の戦争をやり遂げることは出来なかっただろうと人々が断言するのを耳にしたことがあります。

商業は国自体にとって非常に好都合であるばかりでなく、人々が一財産作る最も自然でおあつらえ向きの方法だと私は考えます。私が観察者となって以来、ホワイトホールやセント・ジェイムズよりも、取引所の方が大きな財産が動いているのを見て来ました。一般に、獲得には分別だけでなく満足感が伴うのだと付け加えることができますと思います。

しかしながら、本日の紙面を終えるにあたって、これまで述べてきたことは普通の方法で栄えようとする人々だけを対象としたものであり、貧しい状態から一気にトップにまでのし上がろうとする人々を念頭に置いたものではないことを言い添えておかななくてはなりません。「貯める」という私の格言は、そういった人々を対象としたものではありません。なぜなら、儉約は往々にして野望という目的の妨げになるものですから、何らかの大きな目論見を心に抱きながら、些細なことに専念することはほぼ不可能だからです。

それゆえ、こういった人物を偉大な詩人に見立てることができます。ロンギノスが言うように、偉大な詩人は崇高な着想で頭を一杯にしている間は、必ずしも常に技巧のささやかな美点とか細かな点を気にかけてはいないのです⁸⁾。

しかしながら、ぜひ読者には自分を稀な才能の持ち主であり、普通の人とは違うのだと思い違いをしないように十分気をつけてもらいたいと思います。なぜなら、人々はこの点では非常に騙されやすいからです。

第284号 1712年1月25日（金曜日）

【スティーラー】

私は利得より喜びの方が好きだった。(ウェルギリウス)¹⁾

感化されない素朴な振舞いというものは、間違いなく、非常に大きな魅力です。だが、人々は自分は拘束されず超然としているのだという考えから、人生のいかなる義務にも関わりがないのだといったふりをしてしまいます。あらゆる機会を捉えて、人々は怠慢を装い、仕事に精を出したり配慮したりすることを忌避します。この種のふりをする人は、しきりに「私ほど暢気な人はいないさ」とか「私は確かに誰のことも記憶には残らないのだ」といった表現を口にします。こういった人々にとっては、考えないことが公然とした処世

7) トマス・ドイリーはコヴェントガーデンのリンネル商。彼の名が普通名詞「小型ナプキン」となった。

8) ロンギノス『崇高について』33

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』7.17

訓となっています。確かに、彼らは非常に深刻なことが生起して沈思黙考する必要がある場合でも、それに時間を割くことは出来ません。往々にして、勤勉によってしか達成できないことをうまく処理するのは、この種の人物にとっては荷が勝ちすぎます。ところが、暢気すぎて元気のよい人の欠点を持たない人物が自分にはない激しい欲望を持ちますので、自分は勤勉には最も不向きな人間なのだと公言します。この気質が女性に入り込みますと、あらゆる機会に病気だと称して、何事につけ気乗りのしない態度を取ります。彼女は気分を害しますが、精神があまりにも怠惰ですので怒りを持つまでには至りません。それゆえ、彼女の生き方を左右するのは、著しい不機嫌と穏やかな軽蔑だけです。彼女には知人の醜聞に耳を傾ける好奇心もほとんどありませんし、薦められることを注意して聞くこともありません。このてらいを持ちますと、男女双方とも無用であることを自慢することになり、取るに足らない人物であることにある種の自惚れを持つことになります。

この愚行の正反対となる、言うまでもなく無分別な愚行がもうひとつあります。それは絶えず気ぜわしくするという礼を失した行為のことです。婦人のもとを訪ね、きちんと椅子に腰掛ける間もなく、招き入れられるや否や、つぎの瞬間にはほかの場所での重要な用事に顔を出さなくてははいけないと許しを請う人たちがいます。このように、彼らは別の集まりにも行かなくてはならないと言いながら、あちこち走り回るのです。絶えずどこか別の場所へと移動している人々を引き留めることはできません。周りの人々は用事を気に掛けていることを認め、関心がなくなります。虚栄心にさいなまれた結果、数え切れない用事に従うことが、実際には、彼らをさっさと送り出すことになります。午後知人の半数に会いに行くために走り回っている婦人は、絶えず気ぜわしくしていることを大目に見てもらえるかもしれませんが、用事もない場所にやって来て、その場に長居しておれないと言う男性は許しがたいものです。敏感な観察者や批評家の中には、手紙ほどその人の真実の姿を明らかにするものはないと言っている人がいます。私の手元に、2通の手紙がありますが、前述の気質を備えた人物が書いたものです。落ち着いて手紙を書くときに自分のことに気づかず、率直な会話を交わしているときのように、真面目に紙に言質を与えるのは不思議です。こういった紳士の手紙を読みますと必ず、集いにやって来たときと同様に、今やっていることから身を引かなくてはならないと書かれているのです。自分たちが本当に忙しいのだと確信していることそれ自体が愚行です。このようにして、彼らの時間は現時点からつぎの時点へ、つぎの時点からさらにそのつぎの時点へと繰り延べされてしまいます。そして最終的には、色々なことに首を突っ込みますが何一つ実行に移すことなく人生を終えてしまうのです。

前略

たった今郵便配達夫が立ち去るところです。今晚書いてしまわなければならないとても重要な手紙をほかにも沢山抱えているのですが、先般町に滞在した時に受けました貴方の礼儀正しい振舞いに対する貴方への賛辞を無視するわけにはいきませんでした。不幸なことに、用事を抱えすぎているために、貴方にお伝えしなければならないことの万分の一もお話できません。お願いしますが、この手紙の内容を誰にも知らせないでください。私

が忠実であることだけは信じてください。

草々

急使スティーヴンより

拝啓

私は世間の色々な出来事について書くのは嫌いです。しかしながら、私は鉱泉を飲んでおり、目を酷使しないように言われているのですが、私が貴女にお会いしてからこの方この上なく落ち込んでいるのだとお伝えするために、ペンを持たざるを得なかったのです。どうしてまた、貴女は私が我慢してあの愚かな人物のことに耳を傾けるといった考えを受け入れることができるのでしょうか？ 私の言うことを信じてください。そんな話はなんの足しにもなりません。私のような怠惰な男がわざわざペンとインクと紙を手にして貴女を納得させようとしているのです。こんな手紙を差し上げることを勘弁してください。私はこのようなことで気分を害することは稀です。

敬具

落ち込むブリジット

当の人物はあなたの同国人です。どうか彼が資産家かどうかお知らせください。

拝啓

1712年1月24日

私は昨日の貴紙でシンパー婦人が不満を言っている教区牧師です。お願いですから、この手紙をシンパー婦人に対する公開の警告として公表して頂きたいものです。そうしないと、緑の配置に払っています私の偽りのない配慮が何の効果ももたらさなくなります。それゆえ、失礼ですが、ことの全容を明らかにしたいと思います。彼女が非難していますように、私は昔、数年間ケント州で庭師をしていました。私が教会中にふんだんに緑を置きましたのは、断固としてかつての仕事への愛着からではありません。これはしばらく前に抱いたシンパー婦人（およびその他同類の女性たち）への怨恨に端を発しているのです。シンパー婦人に関して言いますと、ある日、私が賛美歌百番を取り上げ、会衆の声合わせをするために、最初の一節を歌っていますときに、彼女はその間ずっとサー・アンソニーに向かってとても思わせぶりで見苦しい挨拶をしていたのです。そのため、私は憤りのあまりわれを忘れてしまい、調子が狂ってサウスウェルの調子となり、そのつぎにはウィンザーの調子になってしまったのです。つまり、最後まで落ち着きを取り戻せず大混乱になってしまったわけです。それどころか、彼女はしばしば、グロリア・パトリ（小頌栄）の最中に、立ち上がって教会の後ろの方にいる人に向かって笑って挨拶をしている有様なのです。私がお祈りが天に届くように、慎み深く厳粛にアーメンと言っていますときに、彼女は明らかに天上のものに対してではないのが分かるような様子で、周囲をキョロキョロ見回しているのです。要するに、彼女の目的は男性征服なのであり、女性の嫉みを喚起させ、あちらでは愛、こちらでは嫉妬を煽りたてるありさまなのです。その結果、礼拝時間中、祈祷書に目を向けているのは、私だけといった状態になってしまったのです。私は、増大するこの害を阻止するためにいくつか計画を立てましたが、ケントでしばらく生活をしたことがあり、何度もケントの人たちが頭を緑の大枝で隠して征服者をはぐらかした様

子を耳にしたことがありますので、シンパー婦人対策としてこの仕掛けを実行に移すことを思いついたわけです。これによって、多くの若者をシンパー婦人の視線から守っているものと思います。それゆえ、彼女が平穏な心持になるまでは、大枝はそのままにしておきたいと考えています。

敬具

厳格なフランスより

第285号 1712年1月26日(土曜日)

【アディソン】

その時、彼らは自分たちを傷つけ、神や英雄や王を作るようなことはしなかった。(金の王冠と紫色のローブを脱いで) 下賤な方言になることもなかった。また、(その卑しさを避けるために) 虚ろな音を立て、空虚な考えを抱いて、空高く舞い上がることもなかった。(ホラティウス)¹⁾

『失樂園』における筋と登場人物と感情についてはすでに扱いましたので、最後に、言語について考えることにします。この点のミルトンに関しては、学者たちの意見は大きく分かれていますので、私の意見が特異に見え、彼に肩入れした意見になってもどうか大目に見ていただきたいと思います。

英雄詩の言語は、明快であることと崇高であることの双方が必要条件となります²⁾。これら2つの特性のいずれかが欠けても、言語は不完全なものになります。まずもって必要な特性は明快さです。これによって、善良な読者は時々文法つまり統語論の小さなミスを見過ごすことになります。読者が詩人の表現を誤解することはあり得ません。ミルトンでこれに相当する箇所につぎのものが 있습니다。ミルトンが^{サタン}悪魔について語る箇所がそうです。

「……神とその御子を除き、

およそ創造られたもので彼が^{つぐ}一目をおき避けたものは、誰一人いなかった。」³⁾
そして、アダムとイヴについて語る箇所もそうです。

「アダムはその後彼の子として生まれたどの男性よりも容姿端麗であり、

イーヴも彼女の娘として生まれたどの女性よりも麗しかったからだ。」⁴⁾

前者の文において、通常の統語論によれば、1行目で述べられている神とその御子は創造されたものの代表であることは明白です。そして、後者では、アダムとイヴは自分たちの息子や娘に当惑しています。このような小さなきずは、思考が崇高で自然な場合は、ホ

1) ホラティウス『詩の技法』227-30

2) アディソンはアリストテレス『詩学』22.1に従っている。

3) 『失樂園』第2巻678-9行。

4) 『失樂園』第4巻323-4行。

ラティウスと一緒に⁵⁾、それを人間性の無理もない不注意つまり弱点のせいにするべきです。『失樂園』ほどの長編の場合には、それぞれの細部にまで注意を払い、事情に最後まで一貫性を持たせることは無理な話です。それゆえ、揚げ足取りというよりも率直さを旨とした古代の批評家たちは、ミスを償ってあまりある長所を備えた著者の作品のこの種のミスを言い繕うために、ある種の比喩的な表現を考え出したのです。

明快さのみのを考慮すべきだということだと、詩人はもっぱら自身の思考をこの上なく平易で飾り気のない表現にするに違いありません。ところが、この上なく明白な表現や日常会話で用いられる表現はしばしば耳に馴染みがありすぎるものであり、俗人の口から発せられることによってある種野卑なものになってしまうのが通例ですので、詩人は口語的な言い方に陥らないように特別の注意を払う必要があります。オウィディウスやルカヌスにはこの点でお粗末な表現が沢山あります。彼らは提供される最初の表現を取り入れ、自然でかつ崇高なものに高めようとする努力をしていません。この点では、ミルトンは欠陥は少ないのですが、それでも、つぎの文におけるように、いくつかの例に出会うかもしれません：「未熟児や白痴、隠者や修道士、それもまやかし物を携えた白衣、黒衣、灰衣の修道士なのだ。」⁶⁾「……彼らは暫くの間語り合ったが、馳走が冷める心配も別になかった。われわれの祖アダムがやがてこのように語り始めた……」⁷⁾「私のあとに続いて代々生まれてくる者は一人残らず、私のために蒙った禍を怒り、私を呪うにきまっている。そして、『われわれの穢れた先祖に禍あれ！ われわれのこの態^{さま}はアダムのせいなのだ、彼に感謝を捧げようではないか！』と言うであろう。」⁸⁾

創作の大家たちは、多くの優美な表現は一般に使用されることで価値が低下してしまうと、詩人とか雄弁家にとっては不適切なものになってしまうことを熟知しています。このため、死語で書かれている古代作家の作品は、現在使用されている言語で書かれている作品よりも大きな強みを持ちます。ウェルギリウスやホメロスに陳腐な表現や慣用句があっても、昔のギリシア人とかローマ人にはショックだったと思われますが、現代の最も鋭敏な読者の耳でさえ、通りや通常の会話で耳にしたことはありませんので、ショックを覚えることはありません。

したがって、叙事詩の言語は同時に崇高でなければ、明快なだけでは十分とは言えません。このため、ありふれた形式や通常の話し言葉から逸脱したものである必要があります。ぎこちなく不自然な話し方にならずに、ありふれた表現方法を選んでいるかどうかで、詩人の識見が明らかになります。詩人は極度の卑俗さを避けようとして見せ掛けの崇高を掲げるべきではありません。ギリシア人の中では、アイスキュロスと時にはソフォクレスがこの過ちを犯しています。ローマ人では、クラウディアヌスとスタティウスがそうですし、わが同胞では、シェイクスピアとリーがそうです。こういった作家では、偉大さを見せか

5) 『詩の技法』351-3

6) 『失樂園』第3巻474-6行。

7) 『失樂園』第5巻395-7行。

8) 『失樂園』第10巻733-6行。

けることで、文体の明快さが損なわれることがしばしば見受けられます。ちょうどそれは、ほかの多くの作家において、明快さを追求するあまり偉大さが損なわれるのと同様です。

アリストテレスは、慣用的な文体を避け、つぎの方法、まず第一に比喩を用いることによって崇高さを保つようと語っています⁹⁾。ミルトンではつぎの例がそれにあたります：「この二人は、幸多きエデンの園の中にありながらさらに幸多き園ともいえる、その固い抱擁の世界に」¹⁰⁾「手にした火のついている葦をゆっくり打ちふりながら立っていた。」¹¹⁾「草の生い茂った土地から様々な獣の仔が生まれた。」¹²⁾「眼が鑲められていた。」¹³⁾

以上の例ならびにその他無数の例において、比喩はとても大胆なものです。十分根拠のあるものです。しかしながら、ミルトンにおいては比喩はそれほど頻繁には鑲められてはいないと言わざるを得ません。ミルトンの比喩には常に機知の感じが漂っています。アリストテレスが言うように、比喩がぶつかり合って一種の謎つまり判じ物になってしまうことはありません¹⁴⁾。ミルトンは本来の自然な言葉で十分な場合には、比喩に頼ることはほとんどありません。

言語を奮い立たせ、それに詩的な趣を添えるもうひとつの方法は、外国語の慣用語句を用いることです¹⁵⁾。ウェルギリウスにはギリシア語の話法がふんだんに登場します。ホラティウスは頌詩にウェルギリウスよりもふんだんにギリシア語を鑲めています。批評家たちはそれをギリシア様式と呼びます。言うまでもなく、ホメロスはそのためにいくつかの方言を用いました。ミルトンは、古代の詩人の実践ならびにアリストテレスの規則に従って、ギリシア語は言うまでもなく数多くのラテン語、ときにはヘブライ語の用法を詩の言語に注入しました。最初の部分につぎのような箇所があります：「彼らも自分たちの置かれている窮状を認めないわけではなく、痛烈骨を噛む苦痛を感じていないわけでもなかった。だが、統率者の声に翕然として直ちに従った」¹⁶⁾「……漂泊の足を踏みしめながら暗黒の底知れぬ無限の混沌に挑み、肌身にねっとりと纏わりつく昏冥の中に未知の道をさぐり、或いは空々漠々たる深淵を超えて強靱にして疲れを知らぬ翼をかって飛び翔けてゆかねばならない。」¹⁷⁾「……天使とアダムはやがて神の示し給うた幻に導かれて、山に登った。」¹⁸⁾

この点では、いくつかの外国語の語法とともに、形容詞を名詞の後に配置すること、単語の転置、形容詞の名詞への転用などが見受けられます。ミルトンは韻文により崇高な調

9) 『詩学』 22.1

10) 『失樂園』 第4巻506行。

11) 『失樂園』 第6巻579－80行。

12) 『失樂園』 第7巻463行。

13) 『失樂園』 第11巻130行。

14) 『詩学』 22.2

15) 『詩学』 22.2-3

16) 『失樂園』 第1巻335－7行。

17) 『失樂園』 第2巻404－9行。

18) 『失樂園』 第11巻376－7行。

子を付与し、散文の雰囲気無くすために以上のことを取り入れたのです。

アリストテレスの言う3つ目の方法は、他の言語というよりもギリシア語の特質に合致するものです¹⁹⁾。したがって、これはほかの誰よりもホメロスが多用しました。私が言いたいのは、単語を付け足して表現を長くする方法のことです。つまり、ある音節を表す文字を挿入したり省略したりして、その単語を長くしたり縮めたりするのです。ミルトンは言語を奮い立たせるこの方法を、英語の特質が許す範囲で実行に移しました。例えば、前述の文章におけるように、普段隠者を Hermit というところを Eremite とするのがその例です。ミルトンの韻文の韻律を見てみますと、彼は見識を働かせて、いくつかの単語の音節を抑制して2音節を1音節に縮めています。上記のことに加えて、この方法を採用することによって、ミルトンは彼の韻文を変化に富んだものにしましたのです。この方法は、バアル・セブブ（墮落天使）やヘシボン（死海北部にある都の名）などに見られるように、人名や国名に特に顕著に現れています。彼は卑俗な言語を避けるために、名前を変えたりあまり一般に知られていない名称を用いたりしているのです。

同様の理由から、ミルトンは古語をいくつか取り入れています。これによって、彼の詩は威厳が付与され、太古の雰囲気が漂うことになります。

さらに、Cerberian（ケルベロスのような）、miscreated（誤って造られた）、Hell-doomed（地獄に堕ちた）、Embryon Atoms（萌芽状態の原始群）などなどの彼自身の造語があることに注目しなくてはなりません²⁰⁾。もしミルトンのこの自由勝手な振舞いに気分を害する読者がいらっしやれば、その方にはプルタルコス²¹⁾の言説をお勧めしたいと思います。これを読みますと、いかにホメロスが自由勝手であったかが分かります。

ミルトンは、上記の方法および英語が与える限りの気高い単語や表現を選ぶことで、われわれの言語をわが国の詩人がこれまでもその後も成し遂げることのなかった高みにまで引き上げたのです。そして、彼の文体を彼の感情の崇高さに見合うものにしましたのです。

私はミルトンの文体にこだわっていますが、ここに彼の非凡さの一端が伺えるからです。アリストテレスの考えに基づいて述べたほかの詩人たちへのコメントは、おそらく、ミルトンの詩への偏見を多少とも解消するに違いありません。結局のところ、正直に言いますと、ミルトンの文体は、全般的には素晴らしいものですが、アリストテレスが文体を奮い立たせるために規定した比喩を多用することで、硬直化し難解になっている箇所が散見されるところだと思います。

アリストテレスの言う外国語²²⁾の過剰は、ミルトンはこれで大いに飾り立てているのですが、同時に、彼の詩の言語を曖昧にしている箇所も散見されますが、ブランクバース

19) 『詩学』22.4

20) 『失樂園』第2巻655, 683, 697, 900行。ただし、『ジェントルマンズ・マガジン』（1780年4月）で、miscreated はミルトンの造語ではなく、スペンサーがすでに『神仙女王』で使用していたとの指摘がある。

21) 『ホメロスの生涯と詩』（1.16）

22) 『詩学』22.1

(無韻詩)で書かれていますので、適切な使用となったのです。何かほかに補助のない押韻は、散文から言語を作り、しばしば平凡な表現を容認してしまいます。ところが、無韻で書かれる詩の場合には、文体を支え、散文の平板さに陥らないようにするためには、音の華麗さと表現の活力が不可欠です。

この文体の崇高さに対する審美眼がなく、とにかく平凡な表現形式からそれる詩人を嘲笑する人たちは、古代の著者エウクレイデス²³⁾の面白味のない陽気さを論じたアリストテレスを読むのが賢明です。ドライデン氏はこういった人たちを凡庸な批評家と呼びます。

言語という点では、ミルトンがわが国のほかの詩人たちの間では慣例となっていない省略、特にアルファベットのYが母音に先行する場合にはそれを削除するといったような省略を活用した点に注目しなくてはなりません。彼の詩のリズムにおけるこういった点やその他新機軸が彼の詩を変化に富んだものにしています。その結果、耳をそして読者を飽き飽きさせることはないのです。同一の詩脚となると飽きてくるのは確かであり、長編の物語詩で絶え間なく押韻が繰り返されると必ず飽きがくるのは間違いありません。『失樂園』の言語に関する考察を終えるにあたって、彼の韻律の長さや表現の豊かさおよび連が互いに補完し合っている点では、ミルトンがお手本にしたのは、ウェルギリウスというよりはホメロスだったのだと述べて置きたいと思います。

23) 『詩学』 22.5